いやさかNEWS

vol.5
October 20 2015

●発行：日本ボーイスカウト東京都連盟　日野第2団　●編集者：中村俊郎　●住所：東京都日野市程久保4−7−14　●ホームページ：http://www.hino2.tokyo/

２０１５夏、特大号！

キャンプ生活を通して、改めて思ったこと

今年の夏キャンプは、カブ隊は山梨県の西沢渓谷で三泊四日、ボーイ隊は長野県の川上村で四泊五日の日程で実施されました。私もカブ隊・ボーイ隊のキャンプに支援・参加しました。期間中スカウトそして隊指導者と共に生活して、感じたことを報告します。

結論から先に述べます。
スカウト達は、課題・困難に立ち向かい、笑顔を絶やさず大きな声をだし、元気な姿が印象的でした。

キャンプ生活を通して、カブは互いに助け合い、協力し、課題を成し遂げる過程で絆が日々深まっていく姿と、何よりも元気に楽しんで活動している姿が大変良かった。

ボーイは残念ながら、参加人数が少なかったため一人一人の作業量の負荷があったにもかかわらず、班長を中心に協力し合い、助け合い日々の課題をこなしていました。その中で今までの訓練で得た技能・知識が活かされている様子が見てとれました。何よりも少ない班員構成で長期野営を行ったことで、スカウト達の絆が今までより強く増していると感じました。

最後に、スカウト達のために、夏キャンプの計画・準備・実施・運営をして頂いた隊指導者、隊の活動を支援して頂いた団委員の皆さんに感謝申し上げます。

今年の夏キャンプの事だけでは有りませんが隊指導者の皆さんの計画の立案・下見・実踏・準備・スカウトへの事前訓練等々、そしてその計画を支援する団委員の皆さんがあってこそ、スカウトの笑顔が生まれている事を、改めて思い、これからもスカウトのために、皆さんと共にスカウティングをして参りたいと思いキャンプ地を後にしてきました。

弥栄

平成27年10月
ボーイスカウト日野2団
団委員長　榎本哲朗

ボーイ隊 夏キャンプ 感想文

夏キャンプでやったこと

伊藤　正太郎

ボーイスカウト日野二団ボーイ隊は今年の夏キャンプで長野県にいきました。

その中でやったり考えたりしたことを書きます。

初日は、キャンプサイトに行くまでに疲れました。一時間以上歩くことはありませんでしたが上り坂が続いたので疲れました。

二日目は、立ちかまどを作りました。自分ははさみしばりができなかったので、麻ひもを適量に切ったり、落ちてる麻ひもをまとめて使える長さにしたりしました。

三日目は、ハイキングコースの追跡サインを探したりしました。

四日目は、次の日のまきを拾うつもりで雨の中まき拾いをしました。

あと、キャンプファイアーで学んだことを話しました。

こうして五日目の今日にこの作文を書きました。

夏キャンプで色々なことを学べました。

夏キャンプでの経験

池田　侑登

今年の夏キャンプでは、去年のキャンプなどとはまた違った経験をさせていただきました。その主な点を挙げたいと思います。

まず、班の人数が少ないということです。その数なんと三人。この人数で班を回すとなると、一人当たりの仕事量や責任が非常に大きくなります。常に自分が何かしらの仕事を探し、そして行わなければ班が回らないのです。キャンプ全体を通して責任が重かったです。

次に、次長という役職を務めさせていただいたことです。三人の中での次長なので、多くの班員を班長とともに引っ張っていく、という感じではありませんでしたが、グリーンバー会議への出席などを通して、班全体の代表者としてどう班を動かしいくのかを考えさせられました。普段の活動では次長ではないだけに、とても貴重な経験だったと思います。

この夏キャンプでの体験を、普段の活動や学校など他の場面において、活かしていきたいです。

夏キャンプ

久野　和哉

2015年夏、8月13日6時高尾駅北口集合、そこから電車とバスと徒歩で長野県のキャンプ場へ行きます。とちゅう長い一本道横には畑、田舎を思わせる景色でした。

しばらくして森にはいっていきました。キャンプ場はとてもすずしくて、とても快適な場所でした。

三日目ハイキングがありました。足をひねってしまったり、足をうってしまったり、とてもさんざんな一日でしたが、それだからこそ足や手、体がきたえられたと思います。

四日目ずっと雨が降っていました。キャンプファイアーをしようにも火がつかなかったのでライトを火のかわりにしました。四日間のことと明日帰れると思いました。

そして帰り道いままでのことをふりかえるため作文をかきます。

夏キャンプの感想

須﨑　公太郎

僕は今年で三回目の夏キャンプでした。今回のキャンプは同級生七人と下級生一人と、やりやすいメンバーでした。

一日目は、朝の集合が早く辛かったです。でも、設営やまき拾いを仲間としているうちに今回のキャンプは過去二回より楽しくなりました。夜ご飯も初日の最初の食事にしては、よく出来ていて良かったです。

二日目は、立ち釜戸をつくったり、入り口かわりに門をつくったりしました。ご飯も手が付けられなくなる食事はなかったし、楽しかったです。

三日目は、早朝からハイキング。山登りは本当に久しぶりでした。みんなで汗を流しながら山頂を目指して歩いていました。山頂から下山した後の達成感は、心に残るものがありました。

僕は三日間のキャンプでしたが、とても充実した普段では体験出来ないものでした。

人数少ないとめんどいわー

森山　裕貴

　めっちゃ重いリュックを持って高尾駅を出る。
　これから、俺の夏の物語が始まる。驚いたのはその後だった。一文でいうと、「人数が少ない。」俺の属するホワイトベア班は・・・。「4人だった。」いつも夏キャンプは6人位いるのが普通だった。
　しかし今年の夏キャンプは、4人で行わなければならなかった。
　やはり4人しかいないということで、時間通りに予定を進めるには、誰も休む時間がなかった。また、途中で帰る人もいたので、結果的に1人で2～3個の仕事をやらなくてはいけなかった。
　まじめに仕事をやるとちょーめんどくさい。とりあえずキャンプの感想は「つかれた。」
　しかしこのところは、3人や4人でも効率良く仕事ができるようになったことを実感させてくれる。俺はそう思う。

夏キャンプ

熊田　舜士

　この四泊五日は、長いようで短い数日だったと思う。
　厳しい環境下だったが、すべきことが多くあり、充実していたように思う。
　思えばこの夏キャンプは人数が少なく、いつもよりも一人が多くはたらく結果になってしまった。だがしかし、それによって一人一人が努力して成長することができたように思う。
　例えば、今までにくらべて食事の準備が非常に速くなり、キャンプ後半ではかなり時間を残すことができるようになった。
　これは班員一人一人の役割の分担がしっかりできて、全員が周りを見て行動した結果だと思う。
　しかしあまった時間を有効活用することができなかったので、その点は改善が必要だと思う。

キャンプ

吉田　蓮

キャンプへ行きました。
だから疲れました。
火おこすのがスーパーウルトラめんどくさくてスーパーウルトラかなり疲れるようなものでした。
メシを作るのがかなり疲れました。
雨がふったときが疲れました。
点検が疲れました。
食当とかとてつもなく疲れました。
班員が3人だったのでスーパーウルトラ疲れました。
全体的にものすごい疲れました。

夏キャンプの思い出

高木 健次

　この夏もカブ隊とボーイ隊のキャンプに部分参加させてもらった。カブ隊のキャンプの場所は山梨県の西沢渓谷で、ここは私が高幡教会に来た年に初めて参加したカブ隊キャンプの場所だ。今回はスカウトたちは川魚のつかみどりをし、捕まえた魚を塩焼きに出来るようにリーダーの指導を受けながらはらわたを取るなどの下ごしらえをしていた。スカウトの活動の成果である塩焼きを私もいただいた。川辺でいただく塩焼きは特に風情もありおいしかったが、ビールがあってもっとゆっくりできたらと思ってしまう怠惰な心をスカウトたちに対して恥じる。
　ところで宿の食堂には、4年前に来た時のメンバーの名前が寄せ書きされたネッチが飾ってあった。今回ボーイ隊のキャンプに参加したスカウトたちの名前はみんなその中にあった。書いたことも忘れていたが、私の名前もあった。私が教会に来た最初の時からだから、彼らの夏や冬のキャンプに私はずっと顔を出させてもらっていたということになる。そういう意味では一番つきあいが長い人たちだと言える。
　その彼らは今年は長野県の川上村の山中に野営していた。特に印象に残ったのは、彼らが雨の中、炊事のために火を起こしていたことだ。雨で木も、周りも湿っているのに火が起こせることに単純に感心し、人間としての文明化の点でだいぶ差をつけられたなとも思った。苦労しながら火を起こしているスカウトたちの姿は、私の心に残っている数々のスカウトキャンプ名場面の一つとなった。

カブ隊 夏キャンプ 感想文

夏キャンプの思い出　8月10日

3組　中島雪人

ぼくは、8月7日から8月10日まで廣月荘という宿にとまりました。
ぼくがとまった部屋は3組がとまった中で一番広いところでしたが、虫などがたくさんいてあんまりよく眠れませんでした。
それで、一番楽しかったのはスイカ割りです。なぜかというと、ただ切るだけではつまらないから、「本当は右だけど左!!」とうそをついて場所が違ってネタバラシをして、最後にみんなで笑えるからです。特に珍アワードだったのが、古沢君です。古沢君は、スイカではなく隊長の頭をぶったたこうとしたからです。でも結局はスコップをたたいてしまいましたが、棒が折れるほどすごい力でたたいていました。宿からは今日帰ります。

カブスカウトの4日間のキャンプ

2組　宮志竜

2015年8月7日から8月10日までカブスカウトのキャンプ、楽しみにしていたキャンプです。
高尾駅から山梨市駅まできました。そこから新地平まできました。そして宿につきそこでキャンプのはじまりです。
1日目ストラップ作りをしました。そしてポンチという型をかわのキーホルダーにつけました。水にぬらしたのでかわいたものは最後に配られました。足あとの型でボーイスカウトのマークの焼印をかこみました。すごくおもしろくすごいのが出来ました。
2日目さかなづかみをしました。マスという魚をとりました。納豆みたいにぬるぬるしてつかむのがむずかしくて、スピードもすごく速かったです。なのでつかむのがむずかしかったです。そしてやっと捕まえることができてぬるぬるしているのでギュッとつかみました。そしてマスを調理しました。そして生きているままお腹を切り、内臓をとりました。それで塩をつけました。内臓を割りばしでとる時に薮田くんが「深呼吸、深呼吸」と言いながら内臓をとっていました。そして塩焼きにしてマスとお好み焼きを食べました。それはすごくおいしかったです。
3日目ハイキングとキャンプファイヤーをやった。ハイキングは楽だったが足がいたくなった。そして川を見てみたらすごくきれいで見とれていました。ぼくはそこがいいと思いました。そこは西沢渓谷というところへ行きました
キャンプファイヤーではスタンツをしました。不愉快な隊長というのをうたいました。

夏キャンプ

1組　中村東馬

1日目　キーホルダー作り
夏キャンプの初日は皮や型などで、キーホルダーを作った。まず、皮を水でぬらし、やわらかくしてから、型をとった。型は7個ありました。ぼくは7個全部使ってタイトルは「大集合」と名づけました。
2日目　マスづかみ
マスづかみをしに行ったのは、「くどの沢」です。まず、ゲームをしてマスづかみの順番を決めました。2組→3組→1組の順番でやりました。班の人数分つかんでタイムも計りました。1組が一番タイムが速かったです。つかまえたマスは塩焼きにして食べました。
3日目　ハイキング
ハイキングは西沢渓谷を歩きました。山頂でお弁当を食べました。帰りはトロッコ道を歩いて帰りました。行きと帰りは車で送ってくれました。あとキャンプファイヤーは、出し物がおもしろかったです。
4日目　掃除
最終日は、へやのそうじをしました。初めて食堂で昼食を食べました。カレーとスイカとサラダでした。

カブ隊のキャンプ4日間

2組　近藤淳成

8月7日から8月10日までありました。山梨市の西沢渓谷にきました。1日目は、移動がありました。館に4日間泊まりました。まず、高尾駅から出発しました。工作をしました。皮のキーホルダーを作りました。2日目はマスづかみでマスを捕まえました。マスづかみでマスを捕まえるのは意外と簡単でした。12匹捕まえたうち6匹さわりました。意外とすべりました。マスづかみが終わった後、薮田君がマスに割りばしをマスにさして「深呼吸」と言いながら割りばしをさしてました。3日目は、ハイキングをしました。西沢渓谷という山に登りました。あんまり疲れなかったです。水の近くは、すずしかったです。水がきれいでした。キャンプファイヤーでは、劇は歌になりました。「ゆかいなスカウト」の替え歌で「ふゆかいな隊長」にしました。

夏キャンプの思い出

1組　朝比奈うい

印象に残った思い出は三つあります。

一つ目は、魚取りです。一回もマスは取れなかったけれど水に入ったりするのは楽しかったです。

二つ目は、スイカ割りです。みんなギリギリ、スイカを割れなかったり、でも私の班の組長がスイカを割って少しビックリしました。

この中でも私が一番印象に残ったのはキャンプファイヤーです。2組や3組の出し物が見れてとても楽しかったです。歌やダンスも楽しかったです。

他にもハイキングやキーホルダー作りも楽しかったです。

うれしかったことはセレモニーの時にもらう賞です。うさぎの面倒をみる練習にもなるし、何かの表紙をキレイに色鉛筆やペンなどで、カラフルにする、色ぬりをキレイにする力をもつこともできるから、いろいろな事が出来るようになっていいなと私は思います。

初めての夏キャンプものすごく楽しかったです。

カブ隊のキャンプ

2組　薮田泰佑

８月７日～８月１０日まで、キャンプです。

１日目は、宿についたら、キーホルダーを作りました。かわに、ポンチをハンマーでたたいて手首がいたくなりました。

２日目は、6時におきて、ミサを6時20分からやって神父様のはなしを聞いて自分たちが折った紙飛行機を、とばしてもらって一人ずつキャッチしました。でもぼくは、キャッチできませんでした。どこまでとぶか、キャッチしないでみてました。あと、マスのつかみでやっと取れました。しかも、水がつめたくてはじめは足が寒かったです。マスがはやくて捕まえにくかったです。終わったあと、マスを割りばしで、マスのなかに入れてわたをだしました。けど、そのあとにお好み焼きとマスの塩焼きを食べました。けど塩がこくて、魚の味があんまりしませんでした。

３日目は、いつもどおり6時に起きて、9時30分にはじめてのハイキングをはじめました。登りがきつかったけど、途中に休憩場所で、帽子をぬらしてかぶったら元気がでました。頂上についたら、おにぎりを食べたらいつもよりおいしく感じました。おにぎりとみかん、あわせて4つのうち、おにぎり3つは食べれたけど、みかんは食べられませんでした。よる、キャンプファイヤーのスタンツで「ゆかいなスカウト」をかいぞうして、「ふゆかいな隊長」にしてうたったら隊長に、怒られるかと思ったら、隊長が笑ったから、ホッとしました。４日目、7時に起きて、そうじしたあとに、食べたごはんはカレーでおいしかったです。

夏キャンプの思い出

1組　金子裕亮

僕が今回の夏キャンプで一番楽しかったのは、素手でマスをつかんだことです。

マスづかみというのは、ふだん家や学校では体験できない貴重な経験なので、できてよかったです。又、岩のすき間に追いつめて待ちかまえ、つかまえるという一連の作業が、まるで漁をしているみたいで、楽しかったです。

2番目は、ハイキングで沢の近くを歩いたことです。

僕の家の近くは「浅川」という川が流れていますが、今回通った川はそれとは比べものにならないほど色がきれいで、冷たくて、流れが速かったです。そんな上流の川の近くを歩くことはほとんどないので、少し緊張もしたけれど、歩けてよかったです。

3番目は、スイカ割りです。

僕は最後から2番目で、少し割れました。スイカ割りで割ったのは初めてだったので、とてもうれしかったです。その後で食べたスイカも、自分で割ったというのもあって、とても美味しかったです。

他に、順位はつかないけれど楽しかったことは、主に二つです。

一つ目は、初日の皮工作です。

僕はこれまで皮を使った工作をしたことがなかったので、予想以上に面白かったです。

二つ目は、キャンプファイヤーです。

キャンプファイヤーのスタンツは、2日目のマスのことを題材にしました。僕はマスの役をやりました。演技が意外にむずかしかったです。

来年の夏キャンプにはもう行けないけれど、上進してからのキャンプを楽しみたいです。

楽しかった夏キャンプ

3組　金丸翔太

これから夏キャンプでやって楽しかったことを話します。

1日目は電車やバスにのっていき宿につきました。その宿の庭でキーホルダー作りをしました。ハンマーでうつのが楽しかったです。

２日目は、寝れないと思いましたが、寝れました。昼に魚づかみをしました。魚をはなしてしまったこともありましたが、1匹はとれました。その後にスイカ割りをしました。どちらも楽しかったです。

３日目はハイキングです。前半と後半で分かれてました。前半はきつかったです。でも昼ごはんの時にみえた景色はきれいでした。後半は下り坂だったので、そんなに疲れませんでした。夜のナイトゲームが楽しかったです。

4日目はそうじとこの作文をやって、行きと同じやり方で帰ります。

これで終わります。

夏キャンプ

1組　古澤航

まず、おととい、ぼくたちが塩焼きにしてしまったマスのことです。
ぼくは、2分くらいで4匹つかまえました。

５人だったのであと1人は1組のだれかがつかまえました。ぼくがつかまえた4匹の中で1匹が大きかったです。またやりたいです。

次は山のぼりのことです。
山の中には橋と滝がいっぱいありました。こわくて長い橋もありました。たかさが高い滝もありました。山からおちた人の看板がありました。トロッコの看板とトロッコがありました。あとトロッコにのせるものの名前もありました。それはだいもくみたいのです。あとすべるところもありました。いっぱい歩きました。またこの山に行きたいです。

次はそうじのことです。
ぼくは、部屋とおふろと外でした。まずは、部屋のことで、見るとなかったけどほうきではいてみるといっぱいゴミがありました。

次はおふろです。
おふろはゴミはそんなになかったけど、でも少しはありました。ほこりがいっぱいありました。

次は外のことです。
外は砂だらけでした。でも少しははけました。ぼくはそうじがすきです。でも少しめんどくさいです。3つもやってけっこうつかれました。またやりたいです。

少し時間がもどりますがキャンプファイヤーのことです。
ぼくは歌がそんなにすきじゃないので、そんなに大きい声はそんなに出せなかったです。でも劇では大きい声を出せました。あと劇ですごくはずかしかったです。でもがんばりました。あと2組と3組のもおもしろかったです。またやりたいです。

カブ隊のキャンプ

2組　石田大智

今日からカブ隊のキャンプが始まりました。

1日目は高尾駅に集合してから電車で山梨市駅まで行きました。次にバスにのって新地平でおりて廣月荘と言う民宿にいきました。1日目は荷物をおいてからキーホルダーを作りました。その中にボーイスカウトの焼印をおしました。周りの鉄の形を皮にうちました。その後、ぶどうを食べました。とてもおいしかったです。

2日目は魚のつかみどりをしました。つかまえた魚はマスでした。ぼくは2匹つかまえました。その後塩焼きにしました。そしてお好み焼きと一緒に食べました。その後スイカ割りをしました。

3日目はハイキングをしました。西沢渓谷にいきました。水がとてもきれいでつめたかったです。山頂についたらおにぎりを三つ食べました。トロッコ道では二つの案内板がありました。そこには、トロッコにのっていた人の話が書いてありました。とちゅうにあった橋には穴があいていました。帰りの車はずっと友達と話していました。

4日目はそうじをしました。まず玄関そうじをしました。その次に食堂のそうじをしました。

4日間のキャンプは新しい体験や楽しい思い出がつくれてよかったです。

カブの夏キャンプで心にのこった事

3組　千葉修士

（夏キャンプで最高に楽しかった事）
　カブの夏キャンプでは、ハイキングや魚とりなどの事をやりました。場所は、山梨県西沢渓谷にある、民宿廣月荘にとまりました。1日目は高尾駅に集合して電車に1時間半のって、バスに1時間以上のって宿につきました。宿の周りには、たくさんの森林と川のきれいな景色を楽しめる所です。2日目は、魚とりでニジマス1匹ヤマメ1匹をとりました。おやつにスイカ割りで古沢君のスイカ割りでは、スイカにあてるわけではなく、隊長の頭に当てようとしていました。3日目ではハイキングでふかい森林の中に入って雪人くんとツチノコの話をしてずっと昼食を食べる所までツチノコの話をしてずっと持っていました。山梨の森林の中にはツチノコはいるよねなど話をしていました。ツチノコの話楽しかったです。ハイキングではツチノコ見たいなとずっと心に思っていました。すごい楽しかったです。

自然がいっぱい

3組　片山優

　ぼくはこのキャンプに来ていろんなことを体験しました。1日目はキーホルダー作りで自分が初めて来たキャンプの記念になるような作品を作れてよかったです。また作りたいです。
　2日目は魚つかみでマスを取りました。泳ぐのが速くてなかなか追いつけなかったけど、最後に捕まえられることが出来て、よかったです。魚を焼いて食べて、楽しかったです。
　3日目は、ハイキングで、西沢渓谷を歩きました。水はきれいで、すごく景色がよくて楽しかったです。荷台に乗って行くのが特に楽しかったです。ものすごい長くて長かったけど、きれいですごく楽しかったです。
　最後のキャンプファイヤーで、いろんなイベントがいっぱいあって楽しかったです。
　冬季のキャンプにも来たいです。

カブスカウトの4日間

2組　千葉夏己

　今日から、カブ隊のキャンプです。1日目宿についた時、すっごい空気はキレイで、大人になったら、こんな所に住みたいなと思いました。宿の中は、古くて、でも、別荘がこんな感じだから、すぐになれました。荷物を部屋に置いたら、おにぎりを食べて工作しました。工作では、オリジナルのストラップを作りました。イメージしたのは、十五夜です。4つ月を付けて、4つ紅葉を付けて、スカウトのマークを1つ付けました。色は月が黄色、紅葉がオレンジ、マークは焼印でやりました。出来上がった時、自分がこんな上手に作れると思わなかったので、うれしかったです。夕食はとてもごうかで、焼肉やエビフライを食べました。
　2日目は、魚とりでした。とった魚はマスを捕まえました。ママとゆうやも来ました。調理法はまず、魚のわた（内臓）をとりました。2回目に割りばしで、魚の口にさしました。そして、塩焼きにして食べました。わたしの口には、ちょっと合いませんでした。
　3日目はハイキングでした。ハイキングは、ちょっと疲れました。夜はキャンプファイヤーで、自分たちで考えたスタンツをやりました。スタンツは、自分たちでも笑いが止まりませんでした。
　4日目は、いよいよ帰ります。西沢渓谷はすずしいので、帰りたくないです。また来たいです。

夏キャンプの思い出

1組　滝瀬翔太

　1日目は外で工作をして、楽しかったです。工作の時むずかしかったのは、やきいんがむずかしかったです。
　2日目は楽しかったのは、マスをとったことです。むずかしかったのはつかまえることです。
　3日目の楽しかったことはハイキングです。ハイキングでむずかしかったことは最後のおりるところです。キャンプファイヤーが楽しかったです。むずかしかったことは歌をうたうことです。

第 23 回世界スカウトジャンボリー

今年は第２３回世界ジャンボリーが、山口県の阿知須のきらら浜で７月２９日から８月８日までの日程で開催されました。
日本では１９７１年の静岡県朝霧高原での開催以来、４４年ぶりの開催です。

日野２団からは、今回のこのジャンボリーにベンチャー隊から２名（萩原君、中嶋君）、ボーイ隊から３名（宮君、伊藤君、吉田君）の合計５名の優秀なスカウトを派遣しました。

大会期間中は天気にも恵まれて、全員真っ黒に日焼けして８月８日（土）に全員元気に帰ってきました。

ジャンボリーでの二週間

日野2団
ベンチャースカウト隊
萩原　大地

ジャンボリーでの2週間は、本当に新鮮で驚く事ばかりだった。
まず一つが、外国のスカウトと気軽に会話できたということだ。完璧な英語ではなくても、伝えたい事が伝わり相手の言いたい事が分かるというのは、とても楽しいものだった。もちろんそこに国による壁は全くなかった。台湾のスカウトとの食事会はとても楽しかった。
二つ目は人の多さだ。約三万人のスカウトがジャンボリーに参加したため、とても広いキャンプ場がテントだらけになっていた。あの圧倒的な景色とワクワク感は、一生忘れないだろう。当然会場も多くの外国人スカウトで賑わっていた。山口県なのに、外国にいるような感覚となった。
４年に一度しかない上、44年振りの日本での世界ジャンボリーに参加できて本当に良い経験となり、改めてボーイスカウトの素晴らしさを知りました。みなさんも是非、4年後の世界ジャンボリーに参加してみて下さい。

世界ジャンボリーでの思い出

日野第2団
ベンチャースカウト隊
中嶋　瑛都

僕はこの夏、第23回世界ジャンボリーに参加しました。前回、今回と同じ山口県きらら浜で行われた日本ジャンボリーには参加していなかったので、僕は初めてジャンボリーに参加することになりました。
ジャンボリーの始め、正直に言って僕は不安でした。僕の所属している班は他の班と比べると、まだそれほど打ち解けていないという印象があったからです。
しかし、その心配は杞憂でした。当初は若干大人しめな印象を感じていた僕たちの班は日数を重ねるうちに打ち解け、仲良く騒ぎ、はしゃぐようになっていました。あの班で過ごした2週間は僕の中でも大きな思い出となっています。
同じ班や日本隊だけでなく、海外のスカウトたちとの交流も刺激的でした。常に当たり前のように海外の人が身近な場所にいて、すれ違えば挨拶やハイタッチを交わすのです。時には、日本でも海外でも人気のあるポケモン等、共通する話題で盛り上がることもありました。あの時の山口県きらら浜は、「日本であるが日本ではない」という言葉が的を得ていたと思います。
世界ジャンボリーでは、海外スカウトたちとのふれあいを通して、今後もめったにできないようなとても貴重な体験をすることができました。ジャンボリー中は非常に暑く、大変な思いをすることもありましたが、それ以上に楽しく有意義に過ごせたという思いが強いです。今後いつか、もしまたジャンボリーに参加できる機会があったとしたら、是非また参加したいと思える楽しい日々でした。

23WSJ

日野2団
ボーイスカウト隊
吉田　蓮

西暦2015年（平成27年）7月28日（火曜日）から8月8日（土曜日）まで、山口で開かれた第23回世界スカウトジャンボリーに新多磨地区派遣隊のボンデライオン班の班員として参加しました。

まず驚いたのが日本人より外国人の方が圧倒的に多いということです。辺りを見回せば全体に視界に外国人が入らないことがないというくらい外国人が多かったです。

それから、やばいくらい暑かったことくらいです。

そんな中で、いくつか用意されたプログラムをやりました。その中でウォータープログラムが一番楽しかったです。そのウォータープログラムの内容としては、とりあえず泳いだりSUPをしたりと、かなり楽しかったです。とても楽しかったです。

ジャンボリー後ハンガリー派遣隊スカウトがホームステイに来られました

世界ジャンボリーに参加して

日野2団
ボーイスカウト隊
伊藤　暖人

僕は今回の世界ジャンボリーが初めてのジャンボリーでした。世界ジャンボリーでは、普段体験できないような事を、たくさん出来たと思います。

心に残っているのは、外国人と交流したことです。今まで、外国人と会って話したことが無く、英語も話せないので、とても心配でした。しかし、身ぶり手ぶりでどうにか話していることがわかり、いっしょにゲームで遊ぶことができたのは嬉しかったです。

また、アリーナショーも心に残っています。三万人以上の人が来ていたのでとても驚きました。安倍首相など有名な人もたくさん来ていました。

世界ジャンボリーで、僕は、様々な体験をさせてもらい、いろいろな事を学べました。ジャンボリーに参加できたことを感謝し、学んだことを今後に生かしていきたいです。

ICCSブースの様子

日野第2団
副団委員長
鈴木　英彦

ICCSのブースは信仰奨励ゾーンの一画にあります。信仰奨励ゾーンは「ちかいの一条」に有る通り、世界各国のスカウトにとって信仰を持つことが大切であることを分かってもらうためにあります。

そのような中でICCSのブースでは、大きく3つのサービスを実施しました。

一つ目は、カトリックスカウトに対しての日々のミサの提供です。これは原則として朝8時30分と夕方5時30分の2回行われました。

二つ目は、信仰を問わず各国のスカウトにロザリオ作りを体験してもらうことです。ロザリオの祈りが出来るまで教えられたら素晴らしいのですが、なかなかそこまでは行かないようです。

三つ目は、今回の開催国である「日本のカトリック教会の歴史」を二つ目と同様に各国のスカウト、指導者に知ってもらうことです。特に、フランシスコ・ザビエルの布教から二百年以上の迫害と隠れキリスタンの存在、そして信徒発見。特に今年は信徒発見150年です。

では、それぞれについて少し詳しく記します。

一つ目は日々のミサです。

7月26日（日曜日）18：00の主日のミサがスタートでした。これは当初の計画にはなく、ICCSチャプレンのジャック神父様と会場にいる複数の神父様で急に決まりました。我々日本チーム(JCCS)の鈴木、大垣、田中の3名は、25日（土曜日）に追加のマーキをBS宇部15団の団委員の方々と会場内に運び、祭壇、書見台などは26日に運び、組み立てる予定でした。一方、台風12号が九州に接近し、マーキの組み立ては27日に延期。まだまだ26日は設営中です。

そこに、飯盛さんから26日18時から会場でミサを行うので準備をよろしくとの知らせが入りました。

急きょ祭壇や十字架を組み上げました。ジャンク神父が十字架の横の板に肘をかけるものだから、横の板が外れるハプニングがあり補強するなど、なかなか楽しい準備が出来ました。

18時になり、ミサを始める鐘を田中さんが鳴らすと、今度はイタリア隊が急に湧き出るように集まってきました。あれよあれよと20人程で始まりかけたミサが100人を超えてしまいました。イタリア隊の司祭は走りながら祭服を着て、ストラを着け、息を切らせながら共同司式に参加しました。

ミサが始まれば、誰かがギターと太鼓を弾き、楽しい23WSJの最初のミサが出来ました。(写真1)。

それからは日々のミサを神父様が交代交代行いました。我々としては「当番を決めた方が良いのでは」と話しましたが、神父は沢山いるから誰かが司式するからNO-PROBLEM。

と言った感じです。

尚、8月7日の朝ミサでイギリス隊のスカウトの洗礼式がありました。これも急きょ決まったことです。想像するに8月2日の主日のミサ（3,000人の大きなミサで、前田万葉大司教様、チエノット教皇大使(大司教)様、梅村司教様、他司祭約50名で行われました）を体験し決心が付いたものと思います。ICCSのチャプレンであるジャンク神父が面談し、また両親にも連絡するなどして行われました。

各国のそれぞれのミサも少しずつ特徴があります。特にスカウトミサですので、元気なミサが多くありました。

二つ目はロザリオ作りです。

日本人スタッフも片言でロザリオの作り方を教えていました。この片言がかえってスカウトとの親近感ができるのかも知れません。

体にハンディーがある海外のスカウトがロザリオ作りに来ました。そのスカウトには絶えず一緒にいるスカウトがいます。ハンディーの内容は手が震えることです。

ロザリオは細い糸をビーズの穴に通す必要があります。これは難しいので、スタッフは助けたくなります。しかしながら、このスカウトは自力でロザリオを作り上げました。1時間以上かけてです。健常者の何倍も時間をかけて作り上げました。素晴らしい祈りがこもったロザリオです。

三つ目は「日本のカトリック教会の歴史」です。

これは、フランシスコ・ザビエルの布教から、迫害・殉教、そして信徒発見と再度の布教の「日本のカトリック教会の歴史」を海外のスカウトと指導者、また神父様に知ってもらえればと思い作成することにしました。

この制作には多くの方々の協力が有り、出来上がったものです。

先ず、長崎26聖人記念館等の取材から始まりました。文献の入手、理解。そしてそれを日本語でパワーポイントを作成し、ナレーションを付ける。

そして、上智大学カトリックセンターにお願いして英語、フランス語、スペイン語、韓国語、ドイツ語など6か国語に翻訳いただきました。上智ローバも期末試験の最中、大いに手伝ってくださいました。

その後、DVDにして、テレビとDVDレコーダで会場内でプレゼンテーションできるようにしました。

アメリカのシャプレンからはこのDVDを鑑賞して、アメリカのスカウトに見せたいのでDVDが欲しいとのことですので、早速プレゼントしました。

制作した私たちも「日本のカトリック教会の歴史」のダイジェストを知ることが出来、勉強になりました。

以上のように、主日のミサ（別途記載）も含めて、多くの方々の協力と祈りと我々のチームワークで23WSJのICCSブースもICCSチャプレンの「ARE YOU HAPPY」。

の言葉通り、感謝の内に始まり、終わることが出来ました。

神に感謝

ビーバー隊の活動便り

かつどうだより

ビーバー隊の活動は月に2回ですが、8月中はキャンプファイヤー以外ない為、7月に行う<プールと流しそうめん>が夏のメイン活動となります。

今年は天候不良により、「子供ミサ・プール・流しそうめん」の3つを同時に行うという、大変濃い内容になり、スカウト達は元気いっぱい大騒ぎしました。

子供ミサでは以前よりずいぶん静かに話を聞けるようになってきています。教会でボーイ隊のお兄ちゃん達の間に座って少し緊張したのもあるかもしれませんが（笑）。以前はスカウト達が落ち着かず冷や冷やする場面も多々あり、ミサ終了後にどっと疲れ、神父様のお話も頭に残っていない（涙）なんてこともありましたが、子供たちの成長はすごいですね、最近は静かに！と言う機会がずいぶん減りました。

プールはリーダー達がスカウト達の水鉄砲で狙われ、大人もずぶ濡れになりながら大はしゃぎし、流しそうめんでは当たりにサクランボなどの果物や、お箸の練習に難易度が高いブルーベリーと刺身こんにゃくを流してお腹いっぱい食べました。

ビーバー隊では石塚隊長のモットー「自分を表現できるようになる」を柱に、スカウト達が楽しかった！美味しかった！と思ってもらえるように意識して活動を行っています。活動中のスカウト達は目をキラキラさせ何事にも全力で一生懸命に遊んでいます。大人の私も感心するくらいに手を抜かずに一生懸命活動している姿を見ると、子供たちに負けないようにエネルギーを蓄えなくてはと思います。小学1・2年生ということもありケンカやいざこざは絶えませんが、次の瞬間にはすぐに仲良く一緒に遊んでいるのがこの年齢の良いところなので、ある程度は見守っています。

毎回、保護者の方々のご協力ありがとうございます。ビーバー隊は保護者の方々のご理解とご協力が不可欠ですので、これからもどうぞよろしくお願いします。

ビーバー隊副隊長　千葉純恵

渡邊博隆さんが「たか章」を受章

日野第2団副団委員長の渡邊博隆さんがボーイスカウト日本連盟より「たか章」を受章されました。
心からお祝い申し上げます。

ボーイスカウト日本連盟功労章「たか章」受章に想う事、、、、感謝 !!

2015年5月30日、石川県小松市にて行われた日本ボーイスカウト全国大会において、私は「たか章」を受章いたしました。日野第二団の多くの方々と共に歩んできたこの活動の集大成にと、ご褒美を頂いた感じで大変喜んでいます。今までにご指導頂いた関係者に心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。
思い起こせば、40年前の1975年(昭和50年)に、カブスカウトの保護者として日野第二団に在籍し、カブ隊のデンダッドとしてハイキングに同行して以来この活動に参画して、2015年までを過ごしてきたことになります。長い期間ではありましたが、その間には色々な役割を演じてきたので、決して長過ぎとは思っていません。シニア一隊(現在のベンチャー隊)指導者の9年間は高校生のスカウト達と一緒にキャンプや登山を楽しみ、団委員時代の31年間は副団委員長(17年間)、団委員長(14年間)として団の運営に携わり、常にこの日野第二団と歩みました。毎年その役務は同じでも、スカウト達は上進して巣立ち、新たに新入隊員を迎えるので、その活動課題は常に変わり、新鮮だからです。従って、毎年常に新しい状況の中での課題取組みでした。現在は、スカウトが少なく隊活動が難しくなりましたが、スカウト数が膨大化して、大所帯過ぎると時もあった様に、超えなければならない課題は常に新鮮なものでしたから長さによるマンネリ化は感じませんでした。また、1990年からは、地区委員長として役務も加わり、東京連盟の理事の一員としての役割はその広がりを見せて、世界を見据えた考え方も演じなければなりませんでした。ですから、その役務に徹してその都度のスタンツを如何に演じきるかに就きます。スカウト達が日々努力する様に指導者としてのスカウト活動は、与えられた役割を本気になって演じる切ることです。そして自分の持てる時間を、必要経費を、情熱を出し惜しみなく使い切ることです。それを毎年繰り返してきた結果が「たか章」受章に繋がったと思っています。これまでに支援して頂いた方々の思いを背負って代表して頂いた章であることを心に置き、多くの関係者に感謝を申し上げます。ありがとうございました。弥栄

渡邊博隆

たか章：ボーイスカウト日本連盟が授与する功労章の1つ。日本のスカウト運動に対し、全国的にあるいは地方的に、多年にわたり功労顕著なるものに授与される。（日本連盟規定集より）

日野第2団は高幡教会とメルセス女子修道会の愛情のもと、
その敷地・環境を無償で貸していただいています。
そして、私たちはカトリック・スカウトとしても活動を行っています。
そのカトリック・スカウトの日本でのご指導にあたられている方が、
横浜司教区の梅村司教様です。

梅村司教様より、スカウトの日に私たちカトリック・スカウトに向けて
次のメッセージをいただきました。

2015年カトリックスカウトの日メッセージ

「いのちの尊厳　人間の尊厳」

JCCS 担当司教 ラファエル 梅村昌弘

戦後 70 周年を迎えた今年、日本の司教団から『平和を実現する人は幸い』と題する平和メッセージが発表されました。今までにも戦後 50 周年にあたっては『平和の決意』が、戦後 60 周年には『非暴力による平和への道』が出されています。しかし、今年は戦後日本の歩んできた方向性を大きく変えることにもなりかねない安保関連法案をめぐって世論が騒然としているなかでの平和メッセージでした。日本は再び戦争への道を歩み始めてしまうのではないかという危惧を多くの人々が抱くようになりました。平和の使徒であるカトリック・スカウトの皆さんには是非つぎのことを心に留めていただきたいと希望しています。

旧約聖書の冒頭にある創世記において、人は神の姿にかたどり、神に似せて創られた存在として語られています。ですから人間の「いのち」は神からの賜物であり、尊いもの、かけがえのないものなのです。そして人は神のように人格を備えています。人はその存在の初めから「いのちの尊厳」と「人間としての尊厳」が神から与えられているということです。誰一人としてこれを傷つけることも奪い取ることもできません。平和を実現するためには、この二つの尊厳を常に大切にし、尊重しなければならないのです。

今「いのち」と表記したのは、人間は人格を備えた心を宿す存在でもあるということを表わすために敢えて平仮名書きにし「いのち」としました。単なる肉体的な、物質的な「命」だけではないのです。「心身」という言葉がありますが、まさに人間はそのような存在なのであって、たとえば教育の場にあっても子どもたちの身体的な成長ばかりでなく心を育てて行くこともそれ以上に大切に考えて行かなければなりません。

創造主である神ご自身、わたしたち一人ひとりをかけがえのない存在として認め、愛し、いつくしんでくださっています。ですから、わたしたち自身もまた互いをかけがえのない存在として認め、大切にする。これこそいちばん価値ある、すばらしい生き方だということをカトリック・スカウトは世にあって証して行かなければなりません。さらに自分のいのちは自分自身のためだけに与えられているのではありません。却って他者のいのちを生かすために、またそのために使われる時にこそ真のいのちを生きることになるのです。

そして最後に被造物である人間は自らの手で自らのいのちを奪い去ることはできないということについてもしっかりと心に留め置いていただきたいと思います。日本社会では年間三万人を超える人々が自らの命を絶っているという憂うべき事態も今なお続いています

平和は暴力や武力によって実現するものではありません。「いのちの尊厳」「人間の尊厳」を大切にするなかで初めて実現するものなのです。